



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎052(961)2491

今回のテーマの⑤（五月一日掲載）で、間歇的スキャン式持続血糖モニタリング（isCGM）を紹介しました。腕に張り付けたセンサーにスマートフォンやリーダーをかざすと、すぐに血糖値を知ることができ、多くのメリットがあります。しかし、注意すべき点もあります。

まず、測定しているのは皮下間質液中のブドウ糖濃度であり、それを血糖値に換算して表示しているという事です。皮下ブドウ糖濃度と静脈の血糖値は乖離する場合がありますため、表示される数値に違和感のある場合は、指先での血糖測定を行う必要があります。

また、監視されているようで落ち着かないなど、ストレスになるような方には不向きです。ストレスで高血糖になっては本末転倒なので、いろいろな生活パターンを試して血糖変動がどうなるか、ちよつとした実験を楽しむくらいの気持ちで続けていただけたらと思います。

「冬になると指先の血が出ないのです」と言っておられた手。血糖測定のため、長年にわたり何度も深く穿刺（針を刺すこと）して硬くなった指先を拝見しながら、医学的に必

血糖測定新時代—あなたも主治医⑦



要であればそれでも穿刺をお願いしなくてはなりません。正確性やコストの面で課題はあるものの、新たな選択肢としてisCGMを提案できる時代となったことをうれしく思います。「これ(isCGM)なしの生活なんて考えられません」という患者さんと、グラフを見てあれこれ話をするひとときが楽しみになってきている私も、これなしの生活は考えられなくなってきたのかもしれない。(副院長兼糖尿病内科部長・細川香里)

正確性やコスト面で課題も